

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本文理大学医療専門学校
設置者名	学校法人文理学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	診療放射線学科	夜・通信	315 時間 (315 時間)	240 時間	
	臨床検査学科	夜・通信	270 時間 (292.5 時間)	240 時間	
	臨床工学科	夜・通信	315 時間	240 時間	
(備考) 診療放射線学科及び臨床検査学科の実務経験のある教員等による授業科目の授業時数については、1年生の教育課程であり、()内は、2・3年生の教育課程である。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページによる公表 https://iryounbu.ac.jp/disclosure/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本文理大学医療専門学校
設置者名	学校法人 文理学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.nbu.ac.jp/guide/> 内の「大学情報 組織図・役員一覧」に記載

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 取締役相談役	2022年6月30日～ 2026年6月29日	組織運営のチェック機能
非常勤	株式会社 代表取締役頭取	2022年6月30日～ 2026年6月29日	財務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本文理大学医療専門学校
設置者名	学校法人 文理学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画として下記の項目を記載したものを発刊し毎年度学生に配布する。 また、本校ホームページにて公表する。</p> <p>【記載項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本事項 (科目名・担当教員・学科・開講期・単位・教科書・授業形態) 2 目的または到達目標 3 授業計画 (授業の回数やスケジュール) 4 関連科目 5 成績評価の方法・基準 6 参考文献および指定図書 7 実務経験について <p>【授業計画の作成過程】 科目担当教員が、教育課程を踏まえたうえで学習者の視点に立ち授業設計し、関連科目との連携を確認して決定する。</p> <p>【授業計画(シラバス)の作成・公表時期】 12月～2月・・・改訂作業 3月・・・製本 4月・・・配布および公表</p>	
授業計画書の公表方法	情報公開：2022年度授業計画 https://iryounbu.ac.jp/disclosure/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業計画書(シラバス)に記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき単位又は履修の認定を行っている。</p> <p>【成績評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業科目を履修し、当該科目の試験に合格した者には所定の単位を与える。 2 試験は学期末に、又は適時、その履修した科目について筆記、口述、レポート、実技などによって行う。 3 各科目の評価は、A(100～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59点以下)とし、C以上を合格、Dは不合格とする。 4 出席時数が規定の授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 <p>【単位認定】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 他の専修学校の専門課程における授業科目及び短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位を、本校に入学した後の本校における授業科目の履修とみなし、単位を与える。 	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【成績評価の方法】

- 1 成績評価の指標として f-GPA 制度を利用する。
- 2 本校が使用する f-GPA とは、各授業科目の 100 点満点から 60 点までの成績評価に対応して 4.5 から 0.5 のグレードポイント (以下 GP) を付与して算出する 1 単位当たりの評定平均値をいう。
- 3 各科目の GP は成績点から 55 を減じ、10 で除して算出する。ただし、59 点以下の不合格科目の GP は 0 とする。

【f-GPA の計算方法】

- 1 f-GPA は次に定める方法により計算する。
- 2 計算値は、小数点以下第 2 位を四捨五入して第 1 位までを表記する。

$$\text{学期 f-GPA} = \frac{\text{(当該学期に評価を受けた科目の GP} \times \text{単位数)の合計 (総和)}}{\text{当該学期に評価を受けた科目の単位数の合計 (総和)}}$$

【学習指導】

- 1 f-GPAを含む学業成績に基づく学修指導の計画を策定し、学修指導を行う。
- 2 学生のf-GPAを通じて次学期の勉学に対する適切な助言を行う。
- 3 f-GPA1.0以下の成績不振となった学生に対し、修学状況について調査をしたうえで、保証人を交えた指導を行い、以後適宜指導を継続する。

【f-GPAの通知】

- 1 学生から開示を求められた場合は、学生への通知を行う。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	情報公開：f-GPA制度に関する規程 https://iryou.nbu.ac.jp/disclosure/
----------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定方針については、学則第 2 1 条に定めた要件 (本校に 3 年以上在学し、全ての授業科目の単位を修得する) を満たすほか、本校の「教育理念と目標」に掲げた人材として認められた者に課程を修了したと認め、教職員会議の議を経て、校長は卒業を認定し、「専門士 (医療専門課程)」の称号を授与する。

本校の「教育理念と目標」については次のとおりとしている。

【日本文理大学医療専門学校 教育理念と目標】

幅広い教養、奉仕の心、生命の尊厳の認識を持った人間的資質を磨き、社会が医療人に求めているものを的確に把握し対応できる能力を習得させる。

また、医療従事者として、明確な目標を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続的に実施できるような自分を律する人間を育成する。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	情報公開：教育理念と目標 (卒業の認定に関する方針) https://iryou.nbu.ac.jp/disclosure/
----------------------	---

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本文理大学医療専門学校
設置者名	学校法人 文理学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	インターネット (https://www.nbu.ac.jp/guide/account/)
収支計算書又は損益計算書	インターネット (https://www.nbu.ac.jp/guide/account/)
財産目録	インターネット (https://www.nbu.ac.jp/guide/account/)
事業報告書	インターネット (https://www.nbu.ac.jp/guide/account/)
監事による監査報告（書）	インターネット (https://www.nbu.ac.jp/guide/account/)

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	診療放射線学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,700時間/107単位 (2,610時間/103単位)	1822.5 時間 (1935時間)	247.5 時間 (45時間)	540 時間 (450時間)	45 時間 (135時間)	45 時間 (45時間)
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		250人	0人	10人	13人	23人	

※全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数（開設している授業の種類）については、1年生の教育課程であり、（ ）内は、2・3年生の教育課程である。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 1 年間の授業及び定期試験等を行う期間は、30週にわたることを原則とする。 2 各授業科目の授業は、各学期において15週にわたる期間を単位として行う。 3 講義及び演習については15時間から30時間の授業をもって1単位とし、実験・実習及び実技については30時間から45時間までの範囲で1単位とする。 4 臨床実習については、45時間の授業時間数をもって1単位とする。
成績評価の基準・方法
（概要） 100点を満点とし、60点以上を合格とする。各科目の評価は、A（100～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）とする
卒業・進級の認定基準
（概要） 進級要件：当該学年で修得する履修科目のすべての単位を修得したもの 卒業要件：3年以上在籍し、本校教育課程のすべての単位を修得したもの

学修支援等 (概要) 第Ⅰ種・第Ⅱ種放射線取扱主任者資格の取得に向けた対策講座の開講 放課後を利用した課外学習支援の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
60人 (100%)	0人 (0%)	55人 (91.7%)	5人 (8.3%)
(主な就職、業界等) 医療機関（病院・診療所）、健診機関			
(就職指導内容) 求人票開示、面接指導、履歴書指導、合同就職説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 診療放射線技師免許の取得、第Ⅰ種・第Ⅱ種放射線取扱主任者資格の取得			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
249人	15人	6.0%
(中途退学の主な理由) 成績不良や進路変更によるため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生との面談と保護者を交えた三者面談の実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	臨床検査学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,460時間/106単位 (2,610時間/98単位)	1710 時間 (1545時間)	90 時間 (165時間)	615 時間 (855時間)	0 時間 (0時間)	45 時間 (45時間)
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		94人	0人	6人	14人	20人	

※全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数（開設している授業の種類）については、1年生の教育課程であり、（ ）内は、2・3年生の教育課程である。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年間の授業及び定期試験等を行う期間は、30週にわたることを原則とする。 2 各授業科目の授業は、各学期において15週にわたる期間を単位として行う。 3 講義及び演習については15時間から30時間の授業をもって1単位とし、実験・実習及び実技については30時間から45時間までの範囲で1単位とする。 4 臨床実習については、45時間の授業時間数をもって1単位とする。
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>100点を満点とし、60点以上を合格とする。各科目の評価は、A（100～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）とする</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級要件：当該学年で修得する履修科目のすべての単位を修得したもの 卒業要件：3年以上在籍し、本校教育課程のすべての単位を修得したもの</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>第2種ME技術者の資格取得に向けた対策講座の開講 放課後を利用した課外学習支援の実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29人 (100%)	0人 (0%)	25人 (86.2%)	4人 (13.8%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>医療機関（病院・診療所・検査センター）、健診機関</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>求人票開示、面接指導、履歴書指導、合同就職説明会</p>			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 臨床検査技師免許の取得、第2種ME技術者資格の取得
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
103人	8人	7.8%
(中途退学の主な理由) 成績不良や進路変更によるため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生との面談と保護者を交えた三者面談の実施。 学年の枠を超えた学習面サポート。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	臨床工学科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,610時間/95単位	1,920 時間	105 時間	360 時間	180 時間	45 時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		50人	0人	7人	10人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 1 年間の授業及び定期試験等を行う期間は、30週にわたることを原則とする。 2 各授業科目の授業は、各学期において15週にわたる期間を単位として行う。 3 講義及び演習については15時間から30時間の授業をもって1単位とし、 実験・実習及び実技については30時間から45時間までの範囲で1単位とする。 4 臨床実習については、45時間の授業時間数をもって1単位とする。
成績評価の基準・方法
（概要） 100点を満点とし、60点以上を合格とする。各科目の評価は、A（100～80点）、 B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）とする
卒業・進級の認定基準
（概要） 進級要件：当該学年で修得する履修科目のすべての単位を修得したもの 卒業要件：3年以上在籍し、本校教育課程のすべての単位を修得したもの
学修支援等
（概要） 第2種ME技術者の資格取得に向けた対策講座の開講 放課後を利用した課外学習支援の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	13人 (81.3%)	3人 (18.7%)
（主な就職、業界等） 医療機関（病院・診療所）			
（就職指導内容） 求人票開示、面接指導、履歴書指導、合同就職説明会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 臨床工学技士免許の取得、第2種ME技術者資格の取得			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52 人	5 人	9.6%
(中途退学の主な理由) 成績不良や進路変更によるため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生との面談と保護者を交えた三者面談の実施。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
診療放射線学科 1年次	200,000 円	700,000 円	530,000 円	
診療放射線学科 2年次	-	700,000 円	670,000 円	
診療放射線学科 3年次	-	700,000 円	670,000 円	
臨床検査学科 1年次	200,000 円	700,000 円	330,000 円	
臨床検査学科 2年次	-	700,000 円	410,000 円	
臨床検査学科 3年次	-	700,000 円	410,000 円	
臨床工学科 1年次	200,000 円	700,000 円	250,000 円	
臨床工学科 2年次	-	700,000 円	360,000 円	
臨床工学科 3年次	-	700,000 円	360,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
<p>学業の成績が特に優れ、他の学生の模範となる者に、授業料の一部を免除する「特待生制度」がある。1年次の選考は入学試験時に行い、2年次及び3年次の選考は、前年度の成績から選考する。詳細はホームページに記載している。 ⇒https://iryou.nbu.ac.jp/scholarship/</p>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://iryou.nbu.ac.jp/disclosure/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>職能団体または病院の役員・保護者・卒業生を外部委員として委員会を構成する。中長期改善施策に基づき、学校運営 (財務・法令・学生募集) 及び教育活動 (学修成果・教育環境・社会貢献) について、年度初めに設定した自己点検・評価を学校関係者評価委員会で適切な学校運営が進められているか評価と助言を受け、PDCA サイクルに基づいた改善策に取り組んでいく。</p> <p>原則として5月に計画、9月前期まで実行、11月に中間報告に確認、その後は改善を行うため、年度において3回実施する学校関係者評価委員会にて、校長出席の基で外部委員より適時に評価を受けて改善を図る。</p> <p>年度末には評価結果 (学校関係者評価委員会報告書) を学内で共有することで、次年度への課題として改善に取り組んでいる。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
卒業生 (校友会 : 副会長)	2021年4月1日～ 2023年3月31日	卒業生
保護者 (後援会 : 監事)	2021年4月1日～ 2023年3月31日	保護者
大分県診療放射線技師会 監事	2021年4月1日～ 2023年3月31日	企業等委員
大分県臨床検査技師会 会長	2021年4月1日～ 2023年3月31日	企業等委員
へつぎ病院 臨床工学科 科長	2021年4月1日～ 2023年3月31日	企業等委員

学校関係者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
https://iryounbu.ac.jp/disclosure/
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
https://iryounbu.ac.jp/disclosure/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	日本文理大学医療専門学校
設置者名	学校法人文理学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		54人	51人	－人
内 訳	第Ⅰ区分	21人	26人	
	第Ⅱ区分	16人	－人	
	第Ⅲ区分	17人	－人	
家計急変による支援対象者（年間）				－人
合計（年間）				59人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。